

# 高SSH・探究News

Vol. 33

発行日：令和4年1月12日（水）  
発行：山口県立下関西高等学校



## フィリピンサイエンスハイスクールの生徒と交流しました。

12月2日（木）および9日（木）の2回にわたって、普通科の1年次生5人と2年次生1人、探究科の1年次生12人と2年次生2人がフィリピンサイエンスハイスクールの生徒とオンラインで交流しました。フィリピンサイエンスハイスクールは、科学に興味・関心をもつ生徒が在籍するフィリピンの科学技術を担う人材の育成を目指している学校です。教育制度が異なるため、日本の高校生よりもやや年齢が低いおおよそ13歳から16歳（日本の中学校1年生から高校1年生）の生徒が4年間学び、多くの生徒は卒業後にフィリピンや欧米の大学に進学するそうです。1回目の交流を行った12月2日（木）には、自己紹介を行うとともに、事前に準備した資料を使ってそれぞれの国



自己紹介中、熱心に画面に見入っています



すっかり仲良くなってみんな笑顔です

の文化を互いに紹介しました。初めは緊張していた本校の生徒も次第に打ち解け、会話が弾むようになりました。2回目の交流を行った12月9日（木）には、2030年にそれぞれが就いている職業や日常生活を思い浮かべ、そのときの自分になり切って互いに自己紹介をしました。さらに、SDGsに示された17の目標からいくつかを選び、選んだ目標が達成された理想の世界を想像しながら語り合いました。交流会の後、参加した生徒を対象として実施したアンケート調査には、「他国の人々と理解を深めるためには、自分で調べたり学校で学んだりすることに加え、直接話を聞くことが大切だと思った。」や「フィリピンサイエンスハイスクールの皆さんは、SDGsについて自分のこととして考えていることが分かり驚いた。」「同じ年なのに、フィリピンサイエンスハイスクールの皆さんの英語力の高さに驚いた。英語が聞き取れず、返事ができなかつたのが悔しかった。」等の感想がありました。さらに、「日本のアニメーションは海外でも人気があると聞いていたが、フィリピンの生徒との会話の中で具体的なアニメーションのタイトルが話題にあがり、このことを実感できた。」などもありました。それぞれ1時間足らずの交流でしたが、参加した生徒は有意義な時間を過ごすことができました。



実際に英語を聞いて、英語で話すのは思ったより大変！

## 山口県SSHプレゼンテーション力育成塾を開催しました。

12月4日（土）の午後、山口県SSHプレゼンテーション力育成塾を開催しました。当日は、本校生徒20人に加え、山口県内のスーパーサイエンスハイスクール指定校である徳山高等学校から40人、宇部高等学校から4人の生徒が参加しました。育成塾では、初めに中野教頭先生による講義が行われ、プレゼンテーションを行うときに活用したい5つの技が紹介されました。紹介された技を用いて、隣の席に座っている生徒とミニプレゼンテーションに挑戦するなど、実践的な講義でした。講義の後には、13のグループに分かれ、各自が用意してきたスライドを用いてプレゼンテーションの演習を行いました。講義で聞いた技をさっそく活用しながら、相互にプレゼンテーションを披露することができました。プレゼンテーションの中には、観察、実験を行い、考察をまとめた本格的な研究内容のものもありました。



プレゼンテーションって奥が深いなあ



早速技を駆使しています



どのプレゼンテーションも大盛り上がりでした

新型コロナウイルス感染症を防ぐため、山口県内のSSH指定校が集まって活動することは難しい状況ではありますが、これからも機会をとらえて、3校で活動していきましょう。

## ごみの削減について研究に取り組む公民班が、「しものせき環境みらい館」を訪問しました。

2年次の発展探究の授業において、ごみの削減をテーマとした課題研究に取り組む公民班の生徒5人が、12月1日（水）にしものせき環境みらい館を訪問しました。しものせき環境みらい館は、ごみの分別やリサイクルに向けた啓発活動を行う施設です。当日は、下関市で処理されているごみの現状について説明を受けるとともに、様々な容器に書かれているリサイクル識別マークに従って、家庭から排出されるごみの分別に挑戦しました。さらに、資源ごみを分別しリサイクルを行う施設を見学し、下関市の取組を直接学ぶことができました。4月から始めた課題研究も、1月28日（金）に行う校内発表会まで、残された時間もわずかとなりました。



間違えないように分別しよう



ごみの分別に使う大きな機械に驚きました



帰校の後の話し合いも活性化

これまで調査してきた結果をしっかりと考察して、よりよい成果を報告できることを期待しています。